

銚子の風を調べよう 江波戸 正徳

梅雨明け直後の7月30日、子ども10名保護者9名の10組、計19名の参加者で地球の丸く見える丘展望館



にてツアーが行われました。銚子近辺の方の他、東京からの方もいました。講師は気象台長であった市民の会の宮内秀さん、スタッフは推進室2名、市民の会の私を含め3名。午前は座学として風の基礎の講義、銚子の風速データからのグラフ作成、展望館屋上で簡易風速計を用いて風の観測を行いました。子どもたちは優秀でグラフを早々と書き上げていました。屋上で風の観測は無風の昨

年と違い風速6m/s程度のデータが取れました。午後は銚子地方気象台へバスで移動し、気象台職員から気象台の仕事、風速計の概要、観測予報室、屋上、露場での観測器の説明を受けました。

気象台職員のほとんど質問を受けての気持ち伝えたのか、たくさん質問が子どもたちからありました。また会議室には風向風速計の他に、高層気象観測器であるラジオゾンデとそれを上空まで飛ばすゴム気球の実物を用意してあり、子供も大人も大喜びでした。そしてきれいな上質紙に印刷された、子どもだけでなく昨年要望の強かった保護者の誕生日の気象データシートが気象台職員から贈呈され、これも大喜びでした。

最後は展望館に戻って全体のまとめを行い、滞りなく無事終了しました。風とは何か。子どもたちは自宅へ戻って推進協事務局から貸し出された簡易風速計を使ってデータを集め、自由研究をまとめます。

上級編
目指せ！化石博士！
藤身 隆雄



長崎海岸での化石探し

8月4日(日)午前9時、長崎海岸の防災空地に集合。「目指せ！化石博士！！上級編」が始まりました。参加者は子供14名、大人12名、事務局から2名、市民の会より3名

でした。当日は、連日のように続く30℃以上の高温で、長崎海岸で化石を集めるだけで汗びっしょりでした。一時間半、目を皿のようにして、転がっている石ころの中から化石を探しますが、なかなか見つかりません。子供たちはこれぞと思う石を見つけては岩本専門員や房州会員に質問

しますが、「化石ではな

見ながら説明を聞き、長崎海岸では研磨標本の溶岩を各自採取しました。雨で予定が早まったため、屏風ヶ浦に移動し、昼食までの間、宮内敏会員が屏風ヶ浦及び伊能忠敬の説明をしました。

シーズマリナで昼食後、地域交流センターに戻り、岩石の分類、火山の出来方と分布などの講義の後、いよいよ岩石研磨標本の作製です。各自が採取し、岩本専門員と高神小の上原先生によって下準備された安山岩を親子で協力しながら研磨作業に汗を流し、それぞれきれいに標本を仕上げ、研磨標本を観察してその特徴等を隣の人と比べあいました。当日の授業はここまでで

後は各自が研究テーマ

が開催され、親子10組20名が参加しました。講師は山内専門員です。出発前から雨が降り出す悪天候でしたが定刻にフィールドワークに出発。小雨の中、千人塚で一島の溶岩を

きのこ探検隊
新井野方恵

参加者は18名、講師はきのこの研究で知られる慶應義塾大学の糟谷大河先生です。

10時に大学のバスで「銚子ジオパークの森」となった君ヶ浜の国有林に移動し、虫よけスプレーをかけて松林に入ります。先生のお話「きのこは枯れ木や枯れ葉に菌糸を伸ばし、やがてそれらを土に戻す」を聞いた後、きのこ採取となりました。

子供たちはきのこを見つけては親子で小さなシャベルと軍手で採り、場所別に分けて紙袋に入れていきます。ランチは地産地消を

目指すシーズマリナでどり参加者の交流を楽しみました。午後は極相林で知られている渡海神社です。タブの木やスタジイの説明のあと神社の奥に

入って、きのこを採取しました。14時30分に大学に戻り、場所別に分けられたきのこに、先生は一人一人に丁寧に名前を教え、子供たちは紙袋に書き入れます。

その後、全体説明があり用意された顕微鏡で胞子を観察し16時解散しました。持ち帰った紙袋は夏の自由研究の標本になります。

身近にあるきのこの観察は新しい発見になったと思います。

「海の日」記念表彰

銚子ジオパーク市民の会がナルク銚子と共に銚子海上保安部長より表彰されました。長年の海岸清掃活動の功績が認められたものです。



銚子ジオパーク市民の会がナルク銚子と共に銚子海上保安部長より表彰されました。



親子で協力 研習作業